

『上杉鷹山の藩政改革とファイナンス』研究シリーズ6

# 上杉鷹山の人間像

2019年10月

加藤 国雄◎

## <内容>

はじめに

1. 上杉家の系譜・略史
2. 3期にわたる鷹山藩政改革で米沢藩再生
3. 上杉鷹山の藩主としての資質形成過程と政治行動
4. 残したことば
5. 上杉鷹山像の形成(戦前、戦後)

## 上杉鷹山の人間像

### (目的)

この研究シリーズの主題は、鷹山改革の財政・金融面からの分析だが、ここでは上杉鷹山の人となりや人間像を紹介する。

### (要約)

・上杉 鷹山(1751~1822)は、九州の小藩・高鍋藩主の次男として生まれ、10才で上杉家の養子となり、17才で藩主となる。養子となり藩主になるまで江戸藩邸で過ごす。その間、クーデター暗殺、財政窮乏化による領土返上事件などが起こる。これらの事件は、鷹山を救国の君子と見抜き、後に鷹山改革を推進する菁莪社中グループによるものである。彼らは鷹山の師として儒学者・細井平洲を推挙し、平洲は鷹山の生涯の師となる。このような環境で、鷹山は相当な覚悟で若くして藩主となった。

・儉約・改革の率先、七家騒動(重臣の反乱)での果敢な処置、藩校・興讓館の再興、第3期改革への周到な準備などの行動で藩政改革の支柱となった。

・上杉鷹山は米沢藩再生により、江戸時代から偉人として扱われた。戦前では、敬師、儉約、殖産興業、孝行などで国定修身教科書に多く採り上げられた。戦後、バブル経済崩壊後は「危機を乗り切るリーダー」として新たな鷹山像が提示され、幾多の経営書などとして採り上げられたが、史実に基づかない面もある。

・戦後は史実研究が進み、一方で実像理解も進んだ。2013年、鷹山を敬愛したとされる故・ケネディ米国大統領の娘、ケネディ米国大使の就任により、鷹山の民を重視する「近代的」政治家としての理解も進んだ。

## はじめに

- 上杉鷹山の藩政改革の具体的な方策や進展は、後に見るように、改革推進の実際面の執行者である重臣によるところが大きかった。
- しかし、上杉鷹山の支柱としての存在なくして、改革の成功はなかったと言える。
- この研究シリーズ「上杉鷹山の藩政改革とファイナンス」の主題は、鷹山改革の財政・金融面からの分析だが、それを成功に導いた上杉鷹山の人となりや人物像をここで紹介しておく。

## はじめに

上杉鷹山の藩政改革の具体的な方策や進展は、後に見るように、改革推進の実際面の執行者である重臣によるところが大きかった。

しかし、上杉鷹山の支柱としての存在なくして、改革の成功はなかったと言える。

この研究シリーズ「上杉鷹山の藩政改革とファイナンス」の主題は、鷹山改革の財政・金融面からの分析だが、それを成功に導いた上杉鷹山の人となりや人物像をここで紹介しておく。

## 上杉（治憲）鷹山(1751~1822) 簡単なプロフィール

●米沢藩第9代藩主（上杉家第10代当主）

（鷹山は、養父重定死亡後後の名）

●高鍋藩主の次男として生まれ、10才で上杉家の養子となり、17才で藩主となる

\* 鷹山の祖母が5代米沢藩主綱憲の娘

●財政破綻状態の米沢藩を、大儉約と産業振興で復興させた。藩校・興讓館の推進など教育にも力を入れた。人間的にも高潔。



上杉（治憲） 鷹山（1751～1822年）

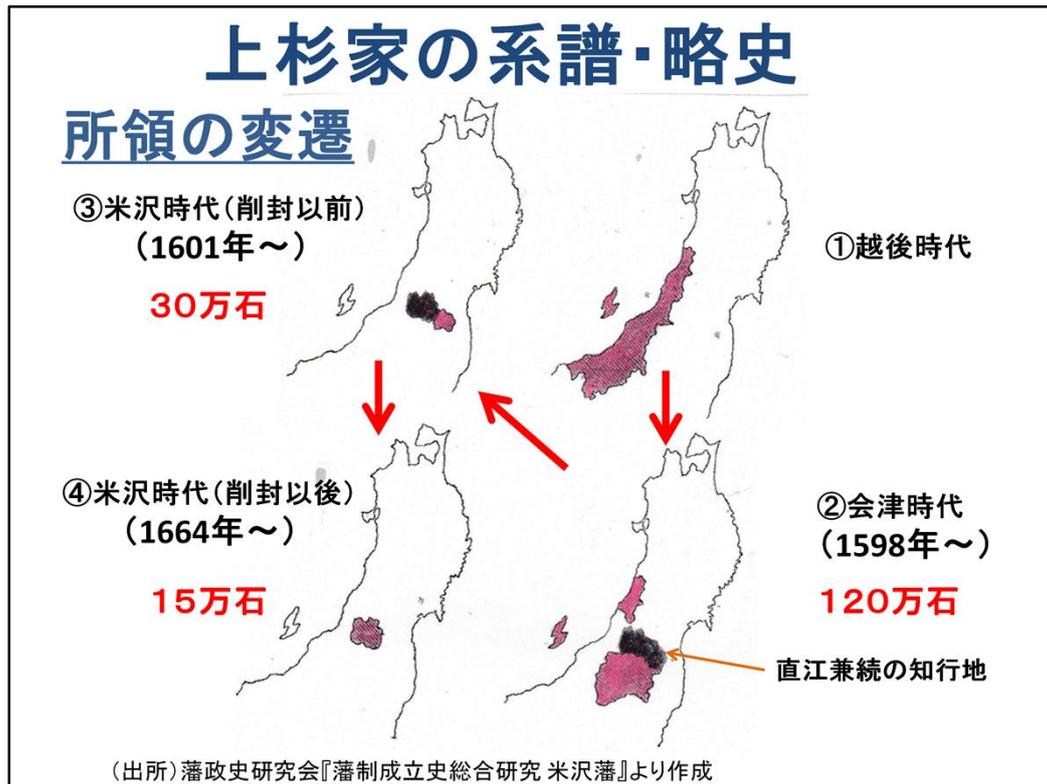
先ず、上杉鷹山の簡単なプロフィールを示す。

上杉鷹山は1751年生まれ、1822年死去だから、鷹山改革は18世紀後半から19世紀初頭のことである。

米沢藩第9代藩主（上杉家第10代当主）にあたる。鷹山は、養父重定死亡（1802年）後の名で、藩主時代は治憲（はるのり）である。

九州の小さな藩・高鍋藩主の次男として生まれ、10才で上杉家の養子となり、17才で藩主となる。鷹山の祖母が米沢5代藩主・綱憲の娘だった縁である。小さい時から聡明で、母代わりに彼を育てた祖母の推薦であった。なお、兄種茂は高鍋藩主となるが、彼も名君として名高い。

財政破綻状態の米沢藩を、大儉約と産業振興で復興させた。藩校・興讓館の推進など教育にも力を入れた。人間的にも高潔とされる。



## 1. 上杉家の系譜・略史

### 1) 所領の変遷

上杉家の所領は、スライドに示すように、転封(領地替え)と2度の削封(領地削減)を経て米沢15万石となった。

#### ①越後時代

上杉家の祖・上杉謙信の時代は越後が領地だった。

#### ②会津時代(1598年～)

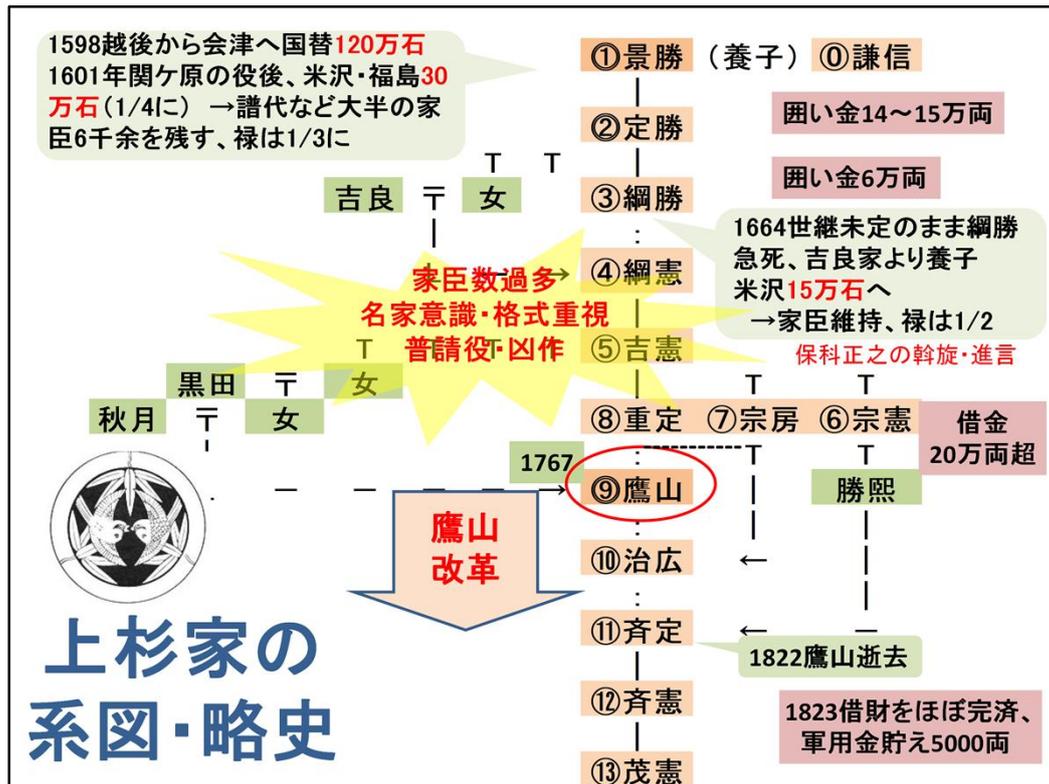
豊臣秀吉の命により、会津120万石に転封される。後の米沢藩域を含む。

#### ③米沢時代(削封以前)(1601年～)

関ヶ原の戦いで敗れた西軍についたため、徳川家康より米沢・福島30万石に削封される。この地域は会津時代に家老・直江兼続の知行地だった。

#### ④米沢時代(削封以後)(1664年～)

3代藩主・綱勝が世継未定のまま急死したため、米沢15万石に削封され、幕末まで続く。



## 2) 上杉家の系図と略史

この図は、上杉謙信に始まる幕末までの上杉家の系図と略史を示す。

謙信の養子(姉の子)景勝の時、豊臣秀吉によって会津120万石に国替えとなった。この時、米沢も領地となったので、景勝が米沢藩の初代となる。

1601年の関ヶ原の戦いで、西軍につき敗れたため、米沢・福島30万石と1/4の領地となった。それでも大半の家臣6,000人を残した。家臣の碌は1/3とした。

1664年、お世継ぎ未定のまま3代綱勝が急死したため、綱勝の妹の嫁ぎ先吉良上野介との間に生まれた綱憲を急遽養子に向かえたが、30万石から15万石に削封となった。この時も家臣数は維持し、碌は1/2とした。この時お家取り潰しにならずに済んだのは、綱勝の養父・保科正之(3代将軍・家光の弟)の斡旋が大きい。

2代定勝の時代、囲い金(軍用の備え金)が14~15万両(1両が現在価値で10万円とすると150~160億円)あり、また15万石に削封された頃も囲い金は6万両あったが、家臣数過多、上杉家の名家意識・格式重視による出費高止まり、幕府からの手伝い普請役(軍役を含む)や凶作などで藩財政は窮乏し、鷹山が養子となる頃には借金が最悪の20万両超(現在価値で200億円)となった。

そこから鷹山改革が始まる。

## 3期にわたる鷹山藩政改革で米沢藩再生

期	執行者と政策	主要な出来事
第1期 (1767～ 1782年)	竹俣当綱による 積極的拡大政策	鷹山率先の儉約から始まる 七家騒動(7重臣の反乱)と果敢な処置 漆・桑・楮百万本植立計画と借金負担軽減 植立計画滞り、竹俣失脚
第2期 (1782～ 1790年)	志賀祐親による 消極的縮小均衡 政策	天明の大飢饉、鷹山隠居(後見役) 財政再悪化→大儉約、第1期事業を撤退 借金負担大幅軽減 好転せず志賀辞任
第3期 (1791～ 1822年)	莅戸善政らによる 積極的縮小均衡 政策	広く意見を募り、莅戸善政が再勤 ただちに大儉約継続、殖産興業に着手 金主との関係修復 農業復興し、養蚕・織物業が発展 16年計画での主要借金返済を32年間で達成 家臣よりの1/2借上げを1/4へ 鷹山死去

(注)期区分と政策は渡邊『近世日本経済史』による。第3期は鷹山死亡までとした

### 2. 3期にわたる鷹山藩政改革で米沢藩再生

鷹山の政治行動を見る前に、3期にわたる鷹山藩政改革の概要(時期、執行者と政策、主要な出来事)を示す(詳しくは研究5参照)。

#### 第1期(1767～1782年);竹俣当綱による積極的拡大政策

- ・鷹山率先の儉約から始まる
- ・七家騒動(7重臣の反乱)と果敢な処置
- ・漆・桑・楮百万本植立計画と借金負担軽減
- ・植立計画滞り、竹俣失脚

#### 第2期(1782～1790年);志賀祐親による消極的縮小均衡政策

- ・天明の大飢饉 ・鷹山隠居(後見役として政治関与)
- ・財政再悪化→大儉約、第1期事業を撤退
- ・借金負担大幅軽減 ・好転せず志賀辞任

#### 第3期(1791～1822年);莅戸善政らによる積極的縮小均衡政策

- ・広く意見を募り、莅戸善政が再勤
- ・ただちに大儉約継続、殖産興業に着手
- ・金主との関係修復
- ・農業復興し、養蚕・織物業が発展
- ・16年計画での主要借金返済を32年間で達成
- ・家臣よりの1/2借上げを1/4へ

## 上杉鷹山と主な関係者

氏名		役割	生年	没年	年齢差
上杉 鷹山	うえすぎ ようざん	米沢藩第9代藩主、治憲。鷹山は隠居後の名	1751	1822	0
上杉 重定	うえすぎ しげさだ	第8代藩主。2人の兄に続き藩主に	1720	1798	31
森 平右衛門	もり へいえもん	重定の側近。竹俣当綱により暗殺される	1711	1763	40
上杉 治広	うえすぎ はるひろ	第10代藩主(重定の子)	1764	1822	-13
上杉 斉定	うえすぎ なりさだ	第11代藩主	1788	1839	-37
藁科 松伯	わらしな しょうはく	藩主侍医、学者。私塾菁莪社で改革先導。若く死す	1737	1769	14
竹俣 当綱	たけのまた まさつな	第1期改革執行。上士階級、奉行、家老	1729	1793	22
荏戸 善政	のぞき よしまさ	第3期改革執行。中級武士	1735	1803	16
志賀 祐親	しが すけちか	第2期改革執行			
神保 綱忠	じんぼう つなただ	鷹山の学友、藩校興讓館督学	1743	1826	8
細井 平洲	ほそい へいしゅう	鷹山の恩師、儒者。藩校・興讓館復興に寄与	1728	1801	23

### 3. 上杉鷹山の藩主としての資質形成過程と政治行動

#### 1) 上杉鷹山と主な関係者

上杉 鷹山(1751～1822) 米沢藩第9代藩主、治憲。鷹山は養父重定死後の名

上杉 重定(1720～1798) 第8代藩主。三男、2人の兄に続きたまたま藩主に

森 平右衛門(1711～1763) 重定の側近。竹俣当綱により暗殺される

上杉 治広(1764～1822) 第10代藩主(重定の子)

上杉 斉定(1788～1839) 第11代藩主(重定の兄・第6代藩主宗憲の孫)

藁科 松伯(1737～1769) 藩主侍医、学者。私塾菁莪社で改革先導。若く死す

竹俣 当綱(1729～1793) 第1期改革執行。上士階級、奉行、家老

荏戸 善政(1735～1803) 第3期改革執行。中級武士

志賀 祐親(生没年不明) 第2期改革執行

神保 綱忠(1743～1826) 鷹山の学友、藩校興讓館督学

細井 平洲(1728～1801) 鷹山の恩師、儒者。藩校・興讓館復興に寄与

(注)表右端に上杉鷹山との年齢差を示す

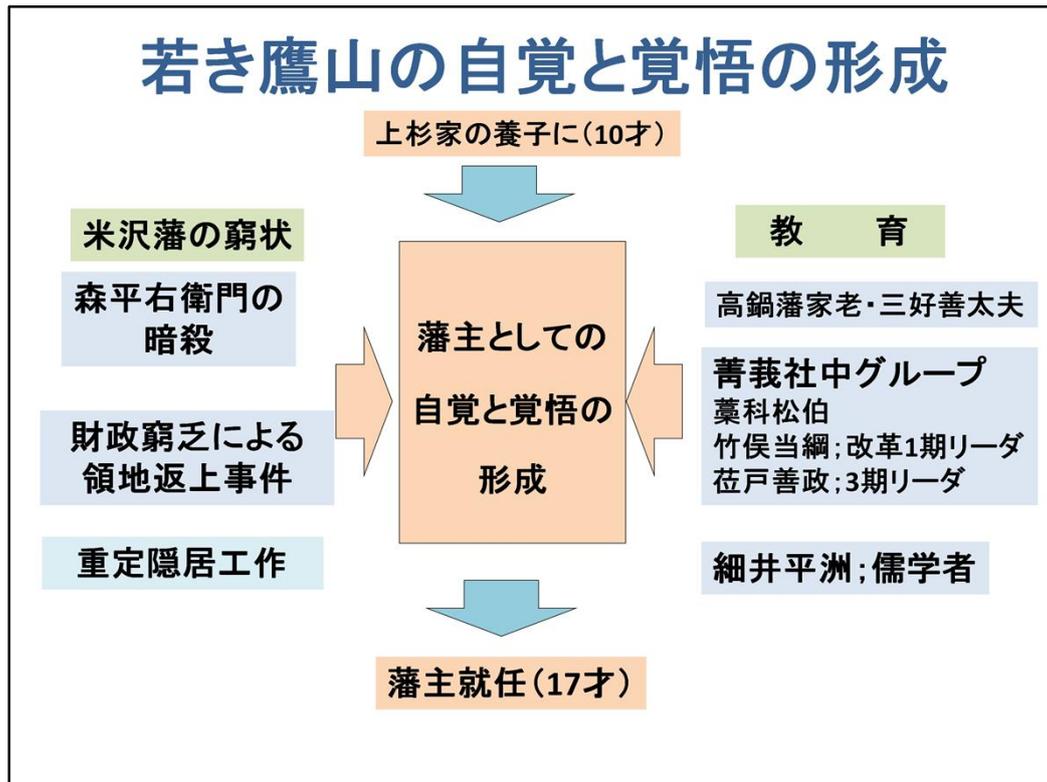
## 鷹山の養子から家督(藩主就任)、初入部まで

西暦	年令	事蹟
1759	9	3月米沢藩主重定の養子に内約
1760	10	6月世子に定まる 10月上杉家桜田邸へ移る
1761	11	8月竹俣当綱江戸家老となる 11月重定、細井平洲を招く
1762	12	
1763	13	2月竹俣当綱ら森平右衛門を殺す
1764	14	11月平洲の初講義 重定、領土返上を決意、しかし取下ぐ
1765	15	11月竹俣当綱執政(奉行)となる
1766	16	7月元服、治憲と改名
1767	17	4月家督 8月米沢春日社に誓文 9月大俣執行の誓詞 2月藁科松柏侍医・素読師範となる
1768	18	
1769	19	8月藁科松柏死亡、幸姫と婚礼 10月27日米沢へ初入部 幕府の西丸手伝を命ぜらる

(出所)横山昭男『上杉鷹山』略年譜より抜粋

### 2) 年譜: 鷹山の養子から家督(藩主就任)、初入部まで

次の説明の際の参考にされたい、



### 3) 若き鷹山の自覚と覚悟の形成

鷹山は9才で上杉家の養子に内定し、10才で継嗣と決定し、米沢藩江戸屋敷(桜田門)へ入った。17才で藩主になるまで江戸藩邸で過ごす。

その間、図左に示すように、米沢藩にはいろいろな事件が起こり、鷹山は米沢藩の窮状にあること思い知らされたことだろう。その事件とは、後に詳述するが、次である。

- ①13才の時、森平右衛門の暗殺
- ②14才の時、財政窮乏による領地返上事件
- ③15才の時、重定隠居工作

一方、図右に示すように、鷹山は藩主となるための教育もしっかり施される。後に詳述するが、次の者からである。

- ①高鍋藩家老・三好善太夫
- ②菁莪(せいが)社中グループ
- ③細井平洲; 儒学者

以上から鷹山は米沢藩の窮状を知り教育を受け、そして藩主となる強い危機意識と自覚・覚悟が形成されただろう。

## 鷹山 養子時代の米沢藩での事件

### ①13才の時、森平右衛門の暗殺(クーデター)

- ・森平右衛門は、藩主重定の重臣で有効な政策を実施したが、私服を肥やし側近専横政治をすすめていた
- ・1763年、改革派の竹俣当綱(後の第1期改革執行者)が、米沢で譜代老臣3人の前で18ヶ条の問罪書を読み上げ誅殺

### ②14才の時、財政窮乏による領地返上事件

- ・竹俣、極度の財政破綻による領地返上を重宗に進言
- ・重宗も決意を固めたが義父・尾張藩主らの励ましで断念

### ③15才の時、重定隠居工作

- ・竹俣は江戸家老から執政(奉行)、米沢藩の最高執行者となり、政治に無関心な重定に隠居をすすめたとされる
- ・その際、竹俣は重定の従来通りの贅沢を隠居後も容認したと思われる。

#### 4)鷹山 養子時代の米沢藩での事件

##### ①13才の時、森平右衛門の暗殺(クーデター)

- ・森平右衛門は、藩主重定の重臣で有効な政策も実施したが、私服を肥やし側近専横政治をすすめていた
- ・1763年、改革派の竹俣当綱(後の第1期改革執行者)が、米沢で譜代老臣3人の前で18ヶ条の問罪書を読み上げ誅殺

##### ②14才の時、財政窮乏による領地返上事件

- ・竹俣、極度の財政破綻による領地返上を重宗に進言
- ・重宗も決意を固めたが義父・尾張藩主らの励ましで断念

##### ③15才の時、重定隠居工作

- ・竹俣は江戸家老から執政(奉行)、米沢藩の最高執行者となり、政治に無関心な重定に隠居をすすめたとされる
- ・その際、竹俣は重定の従来通りの贅沢を隠居後も容認したと思われる

以上のように、全ての事件に竹俣当綱がからんでいる。①森誅殺は、革新派・菁莪社中グループの総意による竹俣の実行によるものだが、その目的の1つが、鷹山が藩主となる際の障害排除だったという。その②、③にも同様な意図があっただろう。

このような米沢藩の事件を江戸屋敷で見聞する中、鷹山は17才で家督を継ぎ第9代米沢藩主となったわけである。

## 鷹山 養子時代に受けた教育

### ①高鍋藩家老・三好善太夫

・養子となる際に送った2通の彼の訓戒書を、鷹山がその後も大事にしていた

### ②菁莪(せいが)社中グループ

・江戸屋敷にあって藁科松伯の家塾・菁莪館に集ったグループ。鷹山改革を推進する竹俣当綱(第1期)、荏戸善政(第3期)も参加

・原平右衛門誅殺クーデターは、松伯がその首唱者。このグループこそが鷹山改革の源流ともいえる

・松伯は、重定侍医、学者。鷹山に素読師範として接し、米沢藩の窮状や、前述事件の背景も知らしめただろう。さらに鷹山を救国の君子と見抜き、細井平洲を見出し、竹俣とともに平洲を鷹山の師範に推挙した。鷹山初入部の年に32才で死去

### ③細井平洲;儒学者

・折衷学派(既成の学派の長所をとって総合)の学者

・鷹山に対し、学問の目的は単なる藩主としての教養ではなく実践にあると説いた

・米沢へは3度訪問。藩校・興讓館の設立にも貢献した

## 5) 鷹山 養子時代に受けた教育

### ①高鍋藩家老・三好善太夫

・養子となる際に送った2通の彼の訓戒書を、鷹山がその後も大事にしていた

### ②菁莪(せいが)社中グループ

・江戸屋敷にあって藁科松伯の家塾・菁莪館に集ったグループ。後に鷹山改革を推進する竹俣当綱(第1期)、荏戸善政(第3期)も参加している

・原平右衛門誅殺クーデターは、松伯がその首唱者。このグループこそが鷹山改革の源流ともいえる

・松伯は、重定侍医、学者。鷹山に素読師範として接し、米沢藩の窮状や、前述事件の背景も知らしめただろう。さらに鷹山を救国の君子と見抜き、細井平洲を見出し、竹俣とともに平洲を鷹山の師範に推挙した。鷹山初入部の年に32才で死去

### ③細井平洲;儒学者

・折衷学派(既成の学派の長所をとって総合)の学者

・鷹山に対し、学問の目的は単なる藩主としての教養ではなく実践にあると説いた。

・米沢へ3度訪問。藩校・興讓館の設立にも貢献した

菁莪社中グループは、鷹山の教育にも大きく関与しており、さらに前に示した3つの事件の主導と考え合わせれば、鷹山の早期の藩主就任実現と藩主教育のお膳立てをしたことになる。鷹山も強い危機意識と知見・教養を高め、それに応えたことになる。

## 鷹山の藩主就任後の政治行動

### (1) 就任時; 不退転の決意

米沢の2つの神社に密かに決意のほどを示す誓詞を収め、儉約令を発し、自らの儉約として率先して、藩主の江戸仕切り金1500両を209両まで圧縮をした。就任時に詠む「受けつぎて国のつかさの身となれば 忘れまじきは 民の父母」

### (2) 初入部時; 慣例を破る

19才にして初めて領地・米沢に入った。その際、従来の伝統や慣例を破る行動にでて、新しい藩主の登場を印象付けた。

### (3) 七家騒動での果敢な対応

藩主となって6年目、「七家騒動(重臣の反乱)」が起こった。鷹山改革への抵抗だったが、鷹山は切腹を含む果敢な処置を下し、その後改革は加速する。

### (4) 藩校・興讓館の再興

教育を重視。1776年実質創設だが、学問所を再建。新設とすることへの財政面での周囲の懸念に配慮したと言われる。1793年には医学館・好生堂の創設した。

### (5) 第3期改革に入る際の周到な準備(研究5参照)

## 6) 鷹山の藩主就任後の政治行動

鷹山が米沢藩主となつてからの彼の政治姿勢を示すいくつかの行動を紹介する。詳しくは数多くある鷹山本に譲る。

### (1) 就任時; 不退転の決意

米沢の2つの神社に密かに決意のほどを示す誓詞を収め、儉約令を発し、自ら儉約を率先し、藩主の江戸仕切り金1500両を209両まで圧縮をした。就任時に詠む;「受けつぎて国のつかさの身となれば 忘れまじきは 民の父母」

### (2) 初入部時; 慣例を破る

19才にして初めて領地・米沢に入った。その際、従来の伝統や慣例を破る行動にでて、新しい藩主の登場を印象付けた。

### (3) 七家騒動での果敢な対応

藩主となって6年目、「七家騒動(重臣の反乱)」が起こった。鷹山改革への抵抗だったが、鷹山は切腹を含む果敢な処置を下し、その後改革は加速する。

### (4) 藩校・興讓館の再興

教育を重視。1776年実質創設だが、学問所を再建。新設とすることへの財政面での周囲の懸念に配慮したと言われる。1793年には医学館・好生堂も創設した。

### (5) 第3期改革に入る際の周到な準備(研究5参照)

## 残したことば

### 伝国の辞; 1785年鷹山が次藩主・治広に与えた

国家は先祖より子孫へ伝え候国家にして 我私すべき物にはこれなく候

人民は国家に属したる人民にして 我私すべき物にはこれなく候  
国家人民のために立たる君にして 君のために立たる国家人民にはこれなく候

### なせば成る; 1783年鷹山が実子・顕孝の教育係に託したことば

なせば成る、なさねば成らぬ何事も  
成らぬは人の、なさぬなりけり

#### 4. 残したことば

鷹山が残したことばとして有名な次の2つ紹介する。

##### 伝国の辞(1785年鷹山が次藩主・治広に与えた)

国家は先祖より子孫へ伝え候国家にして 我私すべき物にはこれなく候  
人民は国家に属したる人民にして 我私すべき物にはこれなく候  
国家人民のために立たる君にして 君のために立たる国家人民にはこれなく候

##### なせば成る(1783年鷹山が実子・顕孝の教育係に託したことば)。

なせば成る、なさねば成らぬ何事も  
成らぬは人の、なさぬなりけり

## 上杉鷹山像の形成(戦前、戦後)

多くの藩が財政窮乏に苦しむ中、米沢藩を再生した上杉鷹山の名声は江戸時代においても高かった。

それ以降現在までも偉人として扱われてきている。その時代に応じて変わる上杉鷹山像を追ってみる。

### 5. 上杉鷹山像の形成(戦前、戦後)

多くの藩が財政窮乏に苦しむ中、米沢藩を再生した上杉鷹山の名声は江戸時代においても高かった。

それ以降現在までも偉人として扱われてきている。その時代に応じて変わる上杉鷹山像を追ってみる。

## 戦前の上杉鷹山伝記書・史実書

明治時代から第2次世界大戦まで、順に次のような伝記書(②、④は史実書)が発表されている。

- ①1893(明治26)年 川村惇『米沢鷹山公』(朝野新聞社)
- ②1906(明治39)年 池田成章編『鷹山公世紀』(吉川弘文館)
- ③1908(明治41)年 内村鑑三『代表的日本人(英文)』  
1941(昭和16)年 同上・日本語訳(鈴木俊郎訳)
- ④1924(大正13)年 甘粕継成『鷹山公遺蹟録』(同書刊行会)
- ⑤1930(昭和5)年 富永周太『上杉鷹山公』(米沢郷土館)
- ⑥1943(昭和18)年 鈴木三郎『史伝・上杉鷹山』(日本産業報国新聞社)

### ②内村鑑三『代表的日本人』

キリスト教思想家・伝道者である内村鑑三によるもので、鷹山を5人の偉人の1人として紹介している。他の伝記が時系列的に功績や美談を示したものに対し、外国人読者を意識し、人格者・上杉鷹山の人物像を紹介している。

## 1)戦前の上杉鷹山像

### (1)戦前の上杉鷹山伝記書・史実書

明治時代から第2次世界大戦まで、スライド①～⑥に示すような伝記書(②、④は史実書)が発表されている。

そのうち海外にも紹介された内村鑑三『代表的日本人』の上杉鷹山像を以下紹介する。

### (2)内村鑑三『代表的日本人』

キリスト教思想家・伝道者である内村鑑三によるもので、鷹山を5人の偉人の1人として紹介している。他の伝記が時系列的に功績や美談を示したものに対し、外国人読者を意識した、上杉鷹山の人物像を紹介している。他の4人は、西郷隆盛、二宮尊徳、中江藤樹、日蓮。

本書は、①を参照して執筆したとされ、「全体として、人格者鷹山に対する照明はするどくえがかれ、民族意識の高揚を背景とした道徳観念が、改革の治績や人物の評価に強く働いている。したがって資料利用の制約があるとはいえ、歴史的な評価が軽視され、信仰的な賛美論となり、聖人化した感をまぬかれない。」(横山昭男『上杉鷹山』p.322)

## 国定修身教科書での鷹山

●明治37年に始まる**国定修身教科書**での登場数で、鷹山は明治天皇、二宮金次郎につぐ第3位

●次のような道德テーマが教材として採用されている

- ①師(先生)をうやまえ; 恩師・細井平洲に対する敬愛
- ②儉約; 大儉約を藩再生に必須と説き率先垂範したこと
  - ・江戸仕切金の大幅削減
  - ・一汁一菜
  - ・着物は木綿物
- ③産業を興せ; 絹織物業などを興したこと

- ・農業を盛んにするいろいろな施策
- ・養蚕のすすめ(生活費から献金、奥向で養蚕・織物)

- ④孝行・敬老; 養父・8代藩主重定などに対する孝行。

・「つねに重定のもとにゆきて、その安否をたづね、(略)怠ることなかりき」  
・後に「能役者を江戸より呼ぶ」部分は割愛され、領内長寿者の敬老が追加  
(出所)伊藤寛「国定修身教科書に描かれた上杉鷹山公の人間像」(1973年)など

→(時代背景)先進的資本主義を目指しながらも、封建的権威や半封建的農村を維持するための封建道德に利用された面も

### (3)国定修身教科書での鷹山

●明治37年に始まる国定修身教科書での登場数で、鷹山は明治天皇、二宮金次郎につぐ第3位である。なお、国定教科書に鷹山の採用を強く主張したのは、教科書用図書調査委員だった吉田熊次(1874~1964年、東京帝大教授、教育学者、現山形市南陽市出身)と言う。(出所;スライド下と同じ)

●次のような道德テーマが教材として採用されている。

- ①師(先生)をうやまえ; 恩師・細井平洲に対する敬愛

- ②儉約; 大儉約を率先垂範したこと

・江戸仕切金の大幅削減

・一汁一菜

・着物は木綿物

・儉約で米沢藩を立て直すと固く決心し率先し家臣、領民にも求めたとして、道德

テーマ「志を堅くせよ」を含む

- ③産業を興せ; 絹織物業などを興したこと

・農業を盛んにするいろいろな施策

・養蚕のすすめ(生活費から献金、奥向で養蚕・織物)

- ④孝行・敬老; 養父・8代藩主重定などに対する孝行。

・「つねに重定のもとにゆきて、その安否をたづね、(略)怠ることなかりき」

・後に「能役者を江戸より呼ぶ」部分は割愛され、領内長寿者の敬老が追加

時代背景として、先進的資本主義を目指しながらも、封建的権威や半封建的農村を維持する必要から、封建道德として利用された面もある(横山『上杉鷹山』を参考に)。

筆者は米沢市出身だが、子供の頃上記をよく聞かされ、時に反発も覚えた。

## 戦後の上杉鷹山像

●戦後高度経済成長期には、戦前の国定修身教科書に取り上げられた封建道徳的な上杉鷹山像は敬遠され気味だったようだ。一方、史実研究はすすんだ。次が代表である。

1968(昭和43)年 横山昭男『上杉鷹山』(吉川弘文館)

●上杉鷹山像の形成面では小説の影響も大きい。発表順に、代表的2つを示す。

①童門冬二『小説・上杉鷹山』(1983年)

・バブル経済崩壊後新たな鷹山像;「危機を乗り切るリーダー」

②藤沢周平『漆の実のみのる国』(1997年)

戦後明らかになった豊富な史実も取り込んだ鷹山像

●その後、特に経営学視点からの鷹山研究本が続々発表された

●2013年ケネディ駐日大使が就任し、父・故ケネディ大統領が敬愛した「近代的」政治家としての鷹山像に言及→ちょっとした鷹山ブームに

### 2)戦後の上杉鷹山像

戦後高度経済成長期には、戦前の国定修身教科書に取り上げられた封建道徳的な上杉鷹山像は敬遠され気味だったようだ。

しかし一方、史実研究はすすんだ。次が代表である。

1968(昭和43)年 横山昭男『上杉鷹山』(吉川弘文館)

上杉鷹山像の形成面では小説の影響が大きい。発表順に、代表的2つ示す。

①童門冬二『小説・上杉鷹山』(1983年)

バブル経済崩壊後新たな鷹山像;「危機を乗り切るリーダー」を示した

②藤沢周平『漆の実のみのる国』(1997年)

戦後明らかになった豊富な史実も取り込んだ鷹山像を示した

特に童門『小説・上杉鷹山』以降、経営学視点からの鷹山研究本が続々発表された

2013年ケネディ駐日大使が就任し、父・故ケネディ大統領が敬愛した「近代的」政治家としての鷹山像に言及した。その後ちょっとした鷹山ブームとなった。筆者の知る限り、その後1~2年で鷹山に関するTV番組が4本放映された。

以下、以上のうち次の2点をさらに詳しくふれる。

(1)2つの小説にみる鷹山像

(2)ケネディ駐日大使の上杉鷹山にかかわるスピーチ

## 2つの小説にみる鷹山像

### ①童門冬二『小説・上杉鷹山』(1983年)

- ・バブル経済崩壊の1990年以降特に、上杉鷹山は「危機を乗り切るリーター」として取り上げられ知名度が高まったが、それは本書の影響が大きいだろう。
- ・ただ、史実面からみてストーリーに違和感が多々ある。例えば、鷹山が藩主となって「冷メシ派」を登用したこと、鷹山の隠居の際「隠居しよう」と気持ちを強めたのは、改革派が鷹山1人を頼りすぎると感じたこと、等々である。
- ・作者は、リーダーシップについての職場体験での思いを作品にこめたとのことである。(出所)童門冬二『内村鑑三「代表的日本人」を読む』(2007)
- ・第3期改革の経過については、荻戸善政再勤までで、ほとんど触れていない。

### ②藤沢周平『漆の実のみる国』(1997年)

- ・本書は、時代小説(歴史を舞台とした創作もの)が多い作者の、数少ない史実ものの1冊で、絶筆である。
- ・本書は、丹念に史実を踏まえた(米沢だけでなく全国的歴史背景も踏まえ)ことが随所にうかがえ、上杉鷹山の実像が描かれている。さらに史実だけでは埋められない疑問も、小説としてうまく説明している。
- ・惜しむらくは、執筆中病床に倒れ、文藝春秋に執筆中だった本書の原稿はもう2～3回分(原稿用紙40～60枚)を予定していたのを、末尾6枚で書上げ絶筆となった。作者がほとんど触れられなかった第3期改革をどう描くかを読んでみたかった。

## (1)2つの小説にみる鷹山像

### ①童門冬二『小説・上杉鷹山』(1983年)

バブル経済崩壊の1990年以降特に、上杉鷹山は「危機を乗り切るリーター」として取り上げられ知名度が高まったが、それは、本書の影響が大きいだろう。

ただ、史実面からみてストーリーに違和感が多々ある。例えば、鷹山が藩主となって「冷メシ派」を登用したこと、鷹山の隠居の際「隠居しよう」と気持ちを強めたのは、改革派が鷹山1人を頼りすぎると感じたこと、等々である。作者は、リーダーシップについての職場体験での思いを作品にこめたとのことである。

第3期改革の経過については、荻戸善政再勤までで、ほとんど触れていない。

### ②藤沢周平『漆の実のみる国』(1997年)

本書は、時代小説(歴史を舞台とした創作もの)が多い作者の、数少ない史実ものの1冊で、絶筆である。

先に執筆した上杉鷹山ものの短編「幻にあらず」(1976年)で、藁科松伯を初老と想定したことを作者は忸怩たる思いをしていたようだ。本作では、丹念に史実を踏まえた(米沢だけでなく全国的歴史背景も)ことが随所にうかがえ、上杉鷹山の実像が描かれていると思える。さらに史実だけでは埋められない疑問も、小説としてうまく説明している。

惜しむらくは、執筆中病床に倒れ、文藝春秋に執筆中だった本書の原稿はもう2～3回分(原稿用紙40～60枚)を予定していたのを、末尾6枚で書上げ絶筆となった(同書・文庫本解説、関川夏央)。作者がほとんど触れられなかった第3期改革をどう描くかを読んでみたかった。

## ケネディ駐日大使のスピーチ①



### ●駐日大使就任後の初スピーチ (2013年11月27日)

“父は、18世紀の東北地方の大名で、優れた統治力と公益のために献身したことで名高い上杉鷹山を敬愛していました。鷹山は民主的な改革を導入し、社会のさまざまな階級の人々に、新たな方法で共に地域社会に参加し、奉仕することを奨励しました。質素に暮らし、未来へ投資するために、学校を建て、事業を起こしました。鷹山は、ケネディ大統領の有名な国への奉仕への呼びかけに通じる言葉を残しています。「国家は先祖より子孫へ伝え候国家にして我私すべき物にはこれなく候。なせば成る為さねば成らぬ何事も成らぬは人の為さぬなりけり”

(出所) 在日米国大使館・領事館ホームページ

## (2)ケネディ駐日大使のスピーチ

ケネディ駐日大使が、父・故ケネディ米国大統領と上杉鷹山について述べた2つのスピーチの抜粋を示す。

### ①駐日大使就任後の初スピーチ(2013年11月27日)

“父は、18世紀の東北地方の大名で、優れた統治力と公益のために献身したことで名高い上杉鷹山を敬愛していました。

鷹山は民主的な改革を導入し、社会のさまざまな階級の人々に、新たな方法で共に地域社会に参加し、奉仕することを奨励しました。

質素に暮らし、未来へ投資するために、学校を建て、事業を起こしました。

鷹山は、ケネディ大統領の有名な国への奉仕への呼びかけに通じる言葉を残しています。

「国家は先祖より子孫へ伝え候国家にして我私すべき物にはこれなく候。なせば成る為さねば成らぬ何事も成らぬは人の為さぬなりけり”

(出所) 在日米国大使館・領事館ホームページ

## ケネディ駐日大使のスピーチ②

### ●米沢市主催「なせばなる秋まつり」に訪れ、市民を前に

(2014年9月27日)

“御存知のとおりケネディ大統領は、本日お祭りで祝っている方に敬服しておりました。上杉鷹山公は、領民に対する献身、そして教育へのコミットメント、人を鼓舞した公共サービス、そして一人ひとりに世の中を良くする力があるとの信念を通し、何世代にもわたる人々を触発してきたリーダーであります。

皆様が鷹山公から受け継いだ遺産を讃え、そして新しい世代にその教えを伝えておられることをお祝い申し上げます。父は「一人でも世の中に変化をもたらす、違いをもたらすことができる。皆やってみるべきだ。」とよく言っておりました。しかし、上杉鷹山公ほど端的にそれを言い表した人はいないと思います。

「為せば成る」(大使が直接、日本語で) ありがとうございます。  
す。”(出所)山形県ホームページ。同時通訳原文のまま掲載



伝国の杜バルコニーにて  
右端;ケネディ駐日大使  
左端;上杉邦憲16代当主

### ●結果、2014年はちょっとした鷹山ブームとなった

私の知る限り4本の鷹山関連テレビ番組が放映された。

私は、その中で「米沢藩の借金は現在の価値で200億円」と言うのを聞き、鷹山研究を思い立った次第

## ②ケネディ駐日大使のスピーチ;米沢市主催「なせばなる秋まつり」に訪れ、市民を前に(2014年9月27日)

“御存知のとおりケネディ大統領は、本日お祭りで祝っている方に敬服しておりました。

上杉鷹山公は、領民に対する献身、そして教育へのコミットメント、人を鼓舞した公共サービス、そして一人ひとりに世の中を良くする力があるとの信念を通し、何世代にもわたる人々を触発してきたリーダーであります。

皆様が鷹山公から受け継いだ遺産を讃え、そして新しい世代にその教えを伝えておられることをお祝い申し上げます。父は「一人でも世の中に変化をもたらす、違いをもたらすことができる。皆やってみるべきだ。」とよく言っておりました。しかし、上杉鷹山公ほど端的にそれを言い表した人はいないと思います。

「為せば成る」(大使が直接、日本語で) ありがとうございます。”

(出所)山形県ホームページ。同時通訳原文のまま掲載

### 結果、2014年頃はちょっとした鷹山ブームとなった

ケネディ駐日大使が着任後、筆者の知る限り4本の鷹山関連テレビ番組が放映された。筆者は、その中で「米沢藩の借金は現在の価値で200億円」と言うのを聞き、鷹山研究を思い立った次第である。

(完)

## 主な参考文献

- ・横山昭男『上杉鷹山』(吉川弘文館)1968年
- ・小野榮『米沢藩』(現代書館)2006年
- ・藩政史研究会『藩制成立史の総合研究 米沢藩』(吉川弘文館)1963年
- ・渡邊與五郎『近世日本経済史 上杉鷹山と米沢藩政史』(文化書房博文館)1973年
- ・横山昭男編『上杉鷹山のすべて』(新人物往来社)1989年
- ・伊藤寛『国定修身教科書に描かれた上杉鷹山公の人間像』(1973年)
- ・童門冬二『小説・上杉鷹山 上・下』(学陽書房)1983年
- ・童門冬二『内村鑑三「代表的日本人」を読む』(PHP文庫)2007年
- ・藤沢周平『漆の実のみゝる国 上・下』(文藝春秋)1997年
- ・在日米国大使館・領事館HP『ケネディ駐日大使就任スピーチ』
- ・山形県HP『ケネディ駐日大使のスピーチ』